

---

# 夕暮れ2010

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夕暮れ2010

### 【Nコード】

N4356P

### 【作者名】

ごほんライス

### 【あらすじ】

「河野夜兎先生の連載「HAPPY」でよく使われる「くだし！」  
てのがやってみたかったという。」

夕暮れ。大きな太陽。赤い太陽。見てると不思議な気分になる。太陽の前をカメラが横切る。これもまた不思議な風景。

君は、公園のベンチであんぱんを食べながら途方に暮れる。

「もう34歳。なのに非正規労働者だ。社員雇用はこの歳になると不可能。小説も五千円応募して一人が合格という世界。オレの乏しい才能では不可能。いったいこの先オレはどうすればいいのか。どうすれば結婚できるのか。子どもを作ることができるのか。家を建てることができるのか」

誰に言ってるのかな。読者にかな。そうかもねえ。

君は、あんぱんをちぎってハトにあげてる。パック牛乳をちゅーと吸う。

夕暮れ。雄大だ。赤い。太古から変わらぬ。君が今の労働状況を悲観してる時でも夕暮れは夕暮れだ。君の悲観に合わせブルー色になるとかそういうことはない。自然の摂理。

夕日の前を、またカメラが横切る。

君は、死にたいとつぶやく。生きていても苦しいことだらけ。早く死にたいとつぶやく。ぼそとつぶやく。公園で野球してるちびっこも向かいのベンチで座っておしゃべりしてる高校生のカップルも聞こえてない。それほど小さい声で言った。大声で「死にたい！」と叫べばみんな気づくだろうが、そんな恥ずかしいこと、君はできない。

でも、夕日だけはしっかり聞いていた。

夕日が何か言ってる。君にはそう感じる。夕日がしゃべるわけはないと思うけど、でも何か言ってるように感じる。君はよく耳をすます。「くじけるな。負けるな」とか言ってくれてるのかな。

「さっさと死ね。めんどくさい。死にたいならさっさと死ねよ！」君を耳を疑った。ええええええええ。言う？そういうこと言う？

???

「グチなんて聞きたくねえよ。うざい。死にたいやつはさっさと死にゃいいんだ。生きたいやつだけ生きりゃいい。お前は死ね」

「オレ、生きるし！」

君はベンチから立ち上がり、夕日に向かって中指を突き立てた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4356p/>

---

夕暮れ2010

2010年12月11日22時58分発行